

令和7年5月吉日

田原本町立田原本中学校

保護者・地域の皆さま

田原本町立田原本中学校

校長 村井 篤史

教職員の勤務時間外の電話対応について

小満の候、皆さまにおかれましてはますますご清栄のこととお喜びいたします。日頃より、当校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、教職員の長時間勤務の常態化が社会的にも大きな関心を集める中、教職員の業務負担の軽減を図り、教職員一人一人が心身ともに健康を保ち、より充実した教育を継続的に行うための環境を整備することは重要な課題になっております。当校でも、教職員の適正な退勤時刻の目安を示すとともに、時間外の電話の対応のあり方について検討を進めてまいりました。つきましては、学校が電話で対応する時間帯等を下記の通りにすることにいたしました。

保護者の皆さまにおかれましては、これらの趣旨につきましては、何とぞご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 電話対応の開始について

令和7年5月29日（木）より開始いたします。

2. 電話対応について

(1) 当校教職員の勤務時間は、平日は午前8時15分から午後4時45分までです。

(2) 電話対応は、平日は午前7時40分から午後7時00分までとさせていただきます。

なお、上記の時間帯でも電話対応ができない場合がありますが、なるべく勤務時間内にご連絡をいただきますようお願い致します。上記以外の時間は基本的に自動音声対応となります。

(3) 休日・祝日・代休日・学校閉庁日（8月11日～15日・12月29日～1月3日）は、学校の電話での対応は行いません。

(4) 長期休業中については電話対応の可能な時間を、勤務時間内とさせていただきます。

(5) 部活動の欠席連絡等については、各部活動から示されている連絡方法をお願いします。

(6) その日のうちに保護者の方に報告・連絡・確認等をさせていただきたい要件がある場合は、上記時間帯以外に学校から電話をさせていただく場合があります。

以上

《保護者・地域の皆さまへ》

文部科学大臣メッセージ(文科省HPより転載)

～学校の働き方改革へのご理解・ご協力をお願いします～

いま、社会全体で働き方改革が進められていますが、学校の働き方改革は特に待ったなしの状況です。皆さまのお住まいの地域の学校は、毎日どのような御様子でしょうか。

朝は子供たちが登校する前の7時すぎから子供たちを迎えるための準備を始め、夜は職員室の明かりが 20 時前までついていて、土日もグラウンドや体育館で部活動をやっている、これは全国の小・中学校の平均的な姿です。一人一人の子供たちと丁寧に向き合いたいという思いから、毎日時間に追われて働いているため、先生は他の職業と比べてストレスが高いというデータもあります。

「そのくらいなら、自分の方が働いている!」「忙しいのは先生だけみたいなこと言わないで!」。皆さまから、そんな声が聞こえてくるかもしれません。ですが、働き方改革が必要なのは先生を楽にするためではありません。学校が、子供たちの未来に直結する場所だからです。御存じのとおり、これから大きく社会が変わろうとしています。今でもパソコンやスマホ、外国人との仕事や交流など、私たちが子供だったときとは、取り巻く環境が違ってきています。学校は、子供たち一人一人がそんな未来をたくましく生き抜く力を身に付ける場所であってはいけません。きちんと文章が理解できる力、答えのない問題に対し、自分で考え、仲間と協力して取り組む力、知らない人に自分の意見を正確に伝える力、そして英語やプログラミングなど、しっかり子供たちに身に付けさせなくてはなりません。

学校の働き方改革は、これまでの先生の働き方を見直し、毎日元気に子供たちの前に立って未来につながる力を育む教育を行うために必要なものなのです。先生には、授業やその準備をはじめとした先生にしかできない教育活動に全力投球していただきましょう。

お住まいの地域の学校でも、これから『朝の登校時間を改める』『夜は学校も留守番電話を設置する』『部活動の時間を見直す』『子供の補導時は基本的に保護者に対応いただく』といった取組が始まります。

こうした中、地域全体で子供たちによりよい教育環境を実現するため、学校・家庭・地域が教育目標を共有し、それぞれ何ができるか考え、連携・分担することが重要です。例えば、保護者や地域の方々などがサポート・スタッフや部活動指導員、ボランティアとして学校に参加する、土日の地域行事や登下校時の見守り、夜間の見回り等は地域が主体的に担うといった取組をこれまで以上に進めていただくことも考えられます。特に、PTA に期待される役割は大きく、学校や地域との役割分担を話し合い、共通理解を得ながら、活動を充実することが大切です。

未来を担うのは子供たちです。子供たちのために我々みんなで行ってまいりましょう。子供たちの教育をますます良くする、そのための学校の働き方改革にご理解をいただき、ご協力をお願いいたします。

平成31年(2019年)3月18日

文部科学大臣 柴山昌彦